

令和5年度幼稚園学校評価（平田幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・毎年、見直し評価・改善をして作成している『教育課程』を表にして貼り、全教職員が共通理解して保育に取り組めるようにしている。学級担任は、定期的に子どもの姿からめざす方向性や教師の援助等について話し合い、具体的な保育の在り方や子どもの育ちについて学び合うことができた。補助教諭にも次第に浸透してきていて、園全体で同じ方向に向かって取り組んでいることを感じる。	4	4	・毎年教育課程を見直し改善を図り、子ども達の実態に即した目標や具体的な目指す姿を明確にし、全教職員が同じ方向を向いて同じようなイメージで子ども達の教育を推進できるようにする。 ※毎年、教育課程を見直しそれに基づいた教育をしておられることに感心する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・担任は毎月の指導計画の作成を工夫し、子どものつぶやきや面白さの変容等を書き込み、一人一人の育ちや課題を明確にしながら、保育の計画を具体的に立てている。また、子どもを語る会や互いの保育を見合うことで、多面的な子どもの見方や援助ができるようになってきた。	4	4	・引き続き、記録の取り方や指導計画の書き方などを工夫したり、子どもを語る会等で一人一人を多面的に見たりしていくことで、幼児理解や充実した保育展開に努める。また、子どもの成長等を保護者にわかりやすく伝えることで、園と家庭とが連携しながら子どもを育てるという関係づくりを心がける。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別な支援を必要とする幼児一人一人の具体的な課題や目標を明確にし、友達との生活を楽しみ自分らしく過ごせるような学級経営を心がけた。必要に応じて、支援ファイルや個別の指導計画を作成し、専門機関とも連携をとりながら、より良い成長につながるような指導を行っている。	4	4	・特別な支援を必要とする幼児への対応は、その時々状況で臨機応変な対応が求められる。実態や課題、具体的な援助などを共有して連携を図ったり、研修などでスキルアップを図ったりして、より良い指導ができるようにする。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・教職員は、年1回以上人権・同和教育研修会に参加したり、その報告をもとに園内で話し合ったりして、自らの人権感覚を磨く努力をしている。 ・教師が子ども達にとって大きな環境の一つであることを認識し、互いに認め合える仲間関係、思いを出し合う中から育つ「優しさ」「認め合い」を大切にしている。	4	4	・幼児を一人の人間として尊重し、教師が子どもにとって大きな環境なので、教師の人間性・人権感覚を磨く努力をしていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事を単なる発表の場・披露の場と捉えず、子ども達が興味をもち遊びを広げていき、その過程でどんなことを経験し、どんな学びをしているのかを大事に支え、一人一人が自信と満足感や達成感を感じられる機会となるよう取り組んできた。今年度はコロナ感染対策の緩和で、保護者に全学年の様子を見てもらうことができた。	4	4	・行事を、一連の活動の一つとして教育活動に位置付け、子ども達が何を経験し、どんな育ちをしてほしいのかを明確にしながら内容を工夫し、一人一人の子どもがその行事をすることで自信をもち成長のステップとなるような行事の在り方を丁寧に話し合っていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・様々な感染症の流行で、計画していた連携が中止になるなど残念な部分もあった。入学後の様子を見に行ったり、就学先の先生に様子を見てもらったり伝えたり、体育会や学習発表会のリハーサル見学をしたり、中学生の保育体験・職場体験など、様々な交流活動はできたように思う。	3	3	・来年度も、できる範囲での交流活動や互いの授業・保育を見合う機会を作っていく良いと思う。また、見合うだけでなく、活動前後の話し合いや合同研修など、職員同士が子どもの育ちについて語り合うことがより良い接続につながると思う。 ※子ども達の育ちをつなぐための連携は大切で必要なことだと思う。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・学級懇談会や個人懇談会、降園時等に、その日の様子や育ち、課題などについて話し合う機会を設けることができた。 ・未就園児教室は予定通りの回数と内容で行ったり、平田楽園クラブさんとの活動では、昔の遊びとお茶会で協力をいただきながら有意義な活動ができた。	4	4	・子どものより良い育ちのために、その時々で最良と考える連携や話し合いをもちながら、今後も互いの信頼関係の構築を図っていく。 ※地域で協力できることはどんどんしていきたい。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・園内研修として、2か月に一回教育課程と指導計画をもとにした子どもの育ちを語り合う会を設けたり、市の指導員を招いてより良い子どもの育ちを支えるための研修をするなど、自身の資質向上に努めた。 ・園外の研究・研修にも積極的に参加し、自己研鑽に励んだ。	4	4	・これまで積み重ねてきた研究を基盤に、教育課程を指標として充実した保育を展開すること、記録から一人一人に丁寧に関わり、より良い育ちにつながる援助について研鑽を重ねていきたい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・年度当初に決めた園務分掌に従って、担当者が早めの起案をして決定事項を全職員に文書で共通理解を図るようにしている。また、教頭が全体の仕事の進捗状況を把握し、声をかけたり、必要であればみんなで考えたりして、滞りなく園務を遂行できるよう工夫している。	4	4	・翌日の保育の準備、園務分掌、学級事務、職員会議など仕事は山積みである。各々が仕事に優先順位をつけて、滞りなく遂行することと同時に、スリム化できる場所を探し、早く帰宅する日も作って、元気で次の日の保育ができるように心がけたい。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・毎学期、火災や地震、不審者等を想定した避難訓練を実施し、マメールを活用した保護者への引き渡し訓練も継続している。誰が第一発見者になっても対応できるように訓練の計画を立て、園児の安全を第一に考えた避難訓練をし、振り返りから課題や改善点を出し合い、いざという時に役立つ避難訓練を行うようにしている。	4	4	・年明け早々の大地震を受け、常に自分事として考えていくことが大事だと改めて思った。いろいろな状況を想定した避難訓練を行い、職員の危機管理意識を高め、臨機応変な対応力を、繰り返しの中で身に付けていく。 ・衛生管理を常に行い、様々な感染症対策を今後も徹底していく。 ※自然災害が多発している中、安全確保のための避難訓練はとても大切である。近隣の平田小学校との合同訓練を行うべきだと思う。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・設備の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月、安全の日を決めて複数の目で園舎内外や遊具の点検をし、異常があればすぐに市に連絡して対応してもらっているが、老朽化によって放置されたままの部分も残るなど、施設管理については引き続き市に要望していく必要性を感じる。	3	2	・定期的な安全点検はもちろん、日々の「ヒヤリハット」を職員で共有し、必要な改善を行い、職員の安全意識の向上を図る。 ・園舎内外に必要な修理・修繕は、引き続き市へ訴えていく。 ※市へ出された危険個所の要望は早急に整備していただき、安全な園生活が過ごせるようにしてほしい。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する

※・・・運営協議会での意見